

訪花害虫 シャクトリムシ類 の同時防除は ロディーにおまかせ



●シャクトリムシ類



●カメムシ類



●コアオハナムグリ



●ケシクスイ類



●アブラムシ類



●ハマキムシ類



●ケムシ類



●カネタタキ



●ヒメエグリバ

害虫からかんきつを守る、この一本

ロディー[®] 乳剤

特長

- 幅広い殺虫スペクトラム。
かんきつのシャクトリムシ類に卓効を示します。
- 殺虫力と速効性に優れています。
- カメムシを寄せつけない、優れた残効性。
- 作物に対する薬害が少なく、安心して使用できます。
- ハダニのリサージェンス(殺虫剤の散布によりハダニ類が増殖する現象)が起こりにくい薬剤です。

■適用害虫と使用方法

*本剤及びフェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用用量	使用時期	総使用回数*	使用方法
かんきつ	アケビコノハ ヒメエグリバ シャクトリムシ類 コアオハナムグリ カメムシ類 アブラムシ類 ミカンハダニ ミカンハモグリガ チャノキイロアザミウマ ケシキスイ類 ミドリヒメヨコバイ ハマキムシ類 カナタタキ ケムシ類	2000倍	200~700g /10a	収穫7日前 まで	本剤:4回 フェンプロパトリン:9回 ^{※1}	散布
	カメムシ類 アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 アカエグリバ アケビコノハ ヒメエグリバ	1000~ 2000倍		収穫前日 まで	本剤:5回 フェンプロパトリン:10回 ^{※2}	

※1:噴射は5回以内、散布及びくん煙は合計4回以内

※2:噴射は5回以内、散布は5回以内

上記以外、他作物にも登録があります。
詳細は、ラベルでご確認ください。

⚠ 使用上の注意

- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- ボルドー液と混用する場合は使用直前に混合してください。
- ミカンハダニに対する残効は短い傾向があるので留意してください。
- 蜜に長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、蜜に付着するおそれのある場所では使用しないでください。
- ハダニ類は薬剤抵抗性が発達しやすいので連続使用は避け、作用性の異なる他の殺ダニ剤と輪番で使用してください。また、年間使用回数もできるだけ少なくするよう努めてください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。
 - 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけてください。
 - 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 医薬用外劇物。取扱には十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けてください。

- 原液は眼に対して刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 原液は皮膚に対して刺激性があるので、散布液調製時には不浸透性手袋を着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 本剤はのど、鼻、皮膚などを刺激する場合、また、かゆみを生じる場合があるので注意してください。
- 散布の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。また、散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- 摘果等の作業の際は、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。
- 本剤による中毒の治療法としては、動物実験でメトカルバモール製剤の投与が有効であると報告されています。
- 水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

シャクトリムシ類への効果

1999年 和歌山県農林水産技術センター果樹園芸試験場



品種: 田浦オレンジ(20年生、露地)
発生: ヨモギエダシャク、セプトエダシャク甚発生
区制: 1区1樹
散布: 5月13日、十分量
調査: 所定日に主枝1本あたりの幼虫数を調査

2000年 熊本県農業研究センター果樹研究所



品種: 川野なつだいたい(2年生、ポット植え)
発生: ヨモギエダシャク多発生(放虫)
区制: 1区3(ポット)樹
散布: 4月5日、103樹
調査: 所定日に寄生幼虫数を調査

2000年 和歌山県農林水産技術センター果樹園芸試験場



品種: 田浦オレンジ(21年生、露地)
発生: ヨモギエダシャク多発生
区制: 1区1樹
散布: 5月18日、十分量
調査: 所定日に主枝1本あたりの幼虫数を調査

この印刷物の記載内容は2022年1月現在のものです。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届く所には置かないでください。
- 空袋・空容器は園場等に放置せず適切に処理してください。

04R1A22R45:Z

2022年1月作成(全農教)

